



ありがとう、ロータリアン！ ③ ロータリーがつなぐ心と心



米山学友

ケイカイン ウイントウラ さん

出身国：ミャンマー

奨学期間：2010 - 11

学校名：京都産業大学

世話クラブ：京都西RC

私は11歳で父を亡くし、母が商売をしながら私たち姉弟3人を育ててくれました。母は「あなたたちに残せる財産はないけど、教育は続けさせるからね。それが私から与えられる財産よ」と、いつも言っていました。休みなく働く母を見て、必死で勉強しました。クラスで1番を取った時の授賞式で母の笑顔を見たくて、私は小学校から高校までトップであり続けました。

大学卒業後、YMCA日本語学校から選ばれ、日本留学のチャンスを与えられました。留学のためには飛行機代と生活費で約30万円、ミャンマーの貨幣で300万チャットという大金が必要でしたが、母は黙ってお金を用意してくれました。

久しぶりの帰省で知った家族の窮状

昨年の冬休み、世話クラブである京都西ロータリークラブ（RC）のカウンセラー・石田公和さんと、会員の佐藤幸男さんを、実家へ案内することになりました。私の故郷はミャンマー北東部、シャン州にある山間の村です。4年ぶりの帰国、私は一足先に旧首都のヤンゴンに入り、2人を待ちました。ヤンゴンにいても家族とは連絡が取れないまま、2人が到着し、一緒に村へ向かいました。

ところが、村に着いても家が見当たりません。「引越したのかな？」と思いました。村の入り口で「私の家」を聞き、そこへ行くと、信じられないほど小さな家の中に、以前と比べ、随分やせてしまった母や姉がいました。

実は、私の留学で借ったお金の返済のため、私に内緒で家を売り、残った家族は苦しい生活をしていました。



ミャンマー訪問の際の（左から）佐藤会員、石田会員、ケイカインさんと、その母弟

せっかく日本から来てくれた石田さんと佐藤さんに、家の事情を見せてしまった恥ずかしさと同時に、家族に何かをしてあげたい、という気持ちでいっぱいでした。

ロータリアンは本気で接する人たち

卒業を控えていた私は日本に戻り、まずは日本で就職して家族の生活を立て直そうと決意しました。しかし、就職活動は思った以上に厳しく、企業の面接に行っても、「漢字はどの程度読めますか？」「中国人は欲しいけど、ミャンマーの方はちょっとねえ」という言葉ばかりを聞きました。そんな時、石田さんが「うちの保育園で働きませんか？」と、声を掛けてくださったのです。

その夜、私は泣きました。私の努力を認めてくれる人がいたからです。石田さんの心と、石田さんを尊敬し、信頼する私の心がつながったと感じたからです。

石田さんだけでなく、京都西RCの皆さんは真剣に私の将来を考えてくださいました。例会や食事会などに招いていただいた時、私が故郷や、将来希望する仕事などの話をすると、いつも熱心に聞いてくれました。

一方、皆さんの話からは、ミャンマーと日本の懸け橋になってほしいという気持ちが痛いほど強く伝わってきます。ロータリアンは、形だけの付き合いはしません。人と本音で接し、人を本気で思いやってくれるのだと感じています。

これまでに米山記念奨学生となった留学生は、世界 120 の国と地域にのぼります。留学生の中には日本との経済格差から、家族が借金をしてわが子を送り出すケースもあります。ミャンマー出身の米山学友、ケイカイン ウィントウラさんもその一人。まだ若いケイカインさんですが、家族の苦労や思い、自分を認めてくれたロータリーアンたちの心に触れ、「自分に何ができるか」を模索し続けています。

ミャンマー人の心で、私にできることを

保育園で事務員として働くようになってまだ 1 年弱ですが、子どもたちが元気いっぱい遊んでいる姿を見ると、自分も元気になり、ミャンマーの子どもたちにもこのような環境をつくってあげたい、と心から願わずにはいられません。

ミャンマーでは、怒りの感情を表すことは恥ずべきこととされ、子どもを叱る習慣がありません。ですから私は、子どもたちばかりでなく、一緒に働く人にも優しい心で接し、このようなミャンマー人の心を、今の職場からも広げられたらいい、と思っています。

最近、うれしいことがありました。京都西 R C の記念事業として、ミャンマーに井戸を建設する計画があると聞いたからです。私の村では、ほぼ全員がマラリアに患っています。私も高校生のころにかかり、一時は命が危なかったそうです。村の子どもたちにきれいな水を飲んでもらい、病気がない生活を送ってもらえたら、どんなにうれしいことでしょう。

日本は東日本大震災により大変な被害を受けていますので、すぐの実現は難しいかもしれません。でも、いつか実現したら、お世話になった京都西 R C の皆さんへの恩返しとして、そして、両国の懸け橋の一本として、私にできる精いっぱいのことを頑張るつもりです。



石田公和氏から一言

カウンセラーをする上で彼女の母国を知っておきたい気持ちがあり、故郷の村を案内してもらいました。そのことで、母国での生活ぶりが、より実感できたと思います。

ケイちゃんは私たちの期待に精いっぱい応えようと頑張る子で、京都府名誉友好大使にも挑戦して、選ばれました。今も家族会などに喜んで参加し、手伝ってくれています。縁あって私の保育園で働いてもらっていますが、同僚からの評価も高く、非常によくやっています。ミャンマーはこれから発展する国です。事務の仕事、園庭で作物や花を育てる仕事、保育の仕事、今はいろいろな道を学んでほしい。いつか母国のために、その経験が役立つ時が来ると信じています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281

Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

より活発な学友会活動を目指して —— 韓国学友会がソウルで総会を開催 ——



活発な学友会を目指し、第2回総会

長らく活動が低調だった韓国米山学友会は 2010 年 5 月、体制を一新して再スタート。そして昨年 11 月 19 日、新体制となって 2 回目の総会が、ソウルで開催されました。当日は約 30 人の学友が参加、総会では各種報告に加え、新会員を増やすためのホームページの活用と、他の学友会との交流を進める方針も決定しました。会員の多くが大学の教授、教員ということもあり、続く忘年会では、自己紹介とともに学友たちから多様な留学経験と研究内容が聞かれ、会場の随所で感嘆の声が上がりました。会長の柳京子リュウキョンジヤさん(1981 - 83 / 北茨城 R C)は、「来年はもっと活発な韓国学友会を目指して、いろいろな計画を立てています」と、今後の抱負を語りました。